

## 第2回矢作川水防災協議会

### 議事概要

日時：平成28年10月25日（火）15：00～16：40

場所：豊田市役所 南52会議室

#### ■議題

1. 「第1回 矢作川水防災協議会 議事概要」について 資料1
2. 「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく矢作川の減災に係る取組方針（案）  
について 資料2-1, 資料2-2

1. 「第1回 矢作川水防災協議会 議事概要」について  
第1回矢作川水防災協議会 議事概要について説明し、了承を得た。

2. 「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく矢作川の減災に係る取組方針（案）  
について

「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく矢作川流域の取組方針（案）について説明し、了承を得て取組方針は決定された。なお、委員の方からご意見を頂いた。以下にその概要を記載する。

#### <豊田市>

- (1) 前回の会議での意見が反映されている。この方向性で運用していきたい。
- (2) 鵜の首狭窄部をはじめとする河川改修をお願いしたい。
- (3) 想定最大規模降雨をどう受け止めたらよいのか、依然として戸惑いがある。豊田市の場合、土砂災害やダム湖の扱いなど、河川のことだけでない。県としては想定最大規模降雨に対して、総合的に対応をとられるのか。市としては、河川だけを切り離して考えるわけにはいかない。  
想定最大規模降雨への対応として、国交省河川からの情報のみで、横断的な対応がされていない。市町の防災対策としては、それでは済まない。浸水だけでなく、土砂災害等を含めた横断的な災害リスクの情報が必要。
- (4) いかに市民を逃がすかという対策とタイムラインの検証をしっかりと県や国と連携をとりながら取り組んでいきたい。

<安城市>

- (1) 住民へのわかりやすい情報提供と住民の水防意識の向上について、継続的かつ重点的に取り組む必要がある。有事の際、自らの命を守るのは最終的には公助ではなく自助・共助であるという認識を持ってもらい、自らが考え、行動してもらえりような取り組みをしていく必要がある。
- (2) 広域での避難体制・支援体制など、市単独では対処できない取り組みもあるため、矢作川水防災協議会の皆様と協力しながら取り組んでいきたい。

<高浜市>

- (1) 県の防災部局との情報共有をお願いしたい。
- (2) 県の管理河川も併せてどう逃げるか、かなり複雑な話になる。タイムラインを検討する場合にも調整が必要になるため、お互い情報共有しながら進めていきたい。
- (3) 矢作川は市域から離れたところにあるため、今回のような取り組みが出ても地域の方にはピンとこない。市町は当然、国・県からもこのような取組を進めているとPRして、住民の方にも意識をつけていただくような取組を行ってほしい。

<西尾市>

- (1) 4月に矢作川分派堰を完成していただきありがたいと思う。大きな雨が降ると矢作古川下流のゴルフ場のフェアウェイまで浸水していたが、今年は一回もなかった。分派堰ができたおかげである。
- (2) 早急に防災ステーションを整備してほしい。
- (3) 内水や他河川の氾濫、土砂災害に加えて、本市では高潮被害も同時に発生することが予想されるため、ソフト対策だけでは物理的に大変厳しいと思われる。例えば、広域的な避難経路となる『命の道』の設置についての検討をお願いしたい。
- (4) さまざまなリスクをあわせた状況設定での避難行動計画の検討には、国や県などの部局を超えてあらゆる関係機関の有機的な連携が必要であるため、体制構築への協力をお願いしたい。
- (5) いろんな組織が横断的にやっけていただくことによって、本当に納得できるものが我々にも伝わる。ぜひ、今後はそういった面からも考えていただきたい。

<幸田町>

- (1) 昨年9月の鬼怒川決壊や今年8月の東北地方を襲った台風10号の被害状況等から、これまで以上に想定最大規模降雨に対する対策が必要と痛感している。同時に、住民に対して確実に行動を起こさせるために行政として何をすべきかという喫緊の課題を改めて突きつけられた。矢作川水防災協議会を構成する自治体の1つとして、自覚を持って取り組んでいきたい。

- (2) 幸田町には水防団が存在せず消防団がその役割を兼ねていることから、水防の専門知識が不足している。今後はみずから守るプログラムを参考に自発的な行動を育む、地域協働型の取組みについて、さらに展開したい。
- (3) 広域避難体制づくりの必要性について十分理解しているが、実際に具現化するには五里霧中の状況。こうした協議会の場を借りて、広域避難の考え方をブラッシュアップしていきたい。当面は、現行の指定避難所・避難路について水位周知河川である広田川もあわせて安全性を検証していきたい。一般的には大災害になるほど、対応の際に混乱しやすいため、いつ・どこで・だれが・なにをするかについてタイムラインで見える化し、認識を共有し実践することが必要である。ものづくり日本を支える企業などが集積しているという特性があることから、重要性は高いと思われる。
- (4) 幸田町でも近隣自治体や企業、学校、地元との連携したタイムラインの構築を目指したい。よきアドバイスをお願いしたい。

#### <岡崎市>

- (1) 内水被害や県の中小河川の氾濫などを考慮したハザードマップに更新することが重要である。県や各市町が実施する氾濫解析などと連携を図っていただきたい。各自治体では要配慮者や災害弱者を含めたきめ細かな対策や対応を検討し、わかりやすい情報提供をする必要がある。情報共有、データ提供、財政面で支援体制を整えていただきたい。
- (2) 樹木伐開について、河川管理者である国土交通省をお願いしたい。市民からも多くの要望をいただいているので、引き続き災害の未然防止として計画的に実施していただきたい。
- (3) 各市町では大幅な避難体制の見直しが必要となる。また、ぜひ本市にも河川防災ステーションと防災拠点の整備を要望したい。
- (4) 近年では、数百年に1度という降雨が起こっており、災害への備えは各自治体の共通の課題である。今回の取組方針に対して、国・県・沿川の各自治体と連携し、早急に取り組んでいきたい。

#### <碧南市>

- (1) 本市の川口町の防災拠点整備を着実に進めていただきたい。
- (2) 洪水ハザードマップに新たな浸水想定をいち早く掲載して、市民に洪水に対しても十分注意していただくよう全戸配布して啓発に努める。
- (3) 浸水の想定が深くなっている地域には拠点病院である碧南市民病院もあり、大変懸念している。市民の安全・安心を図るために今後の対策について積極的なご支援をお願いしたい。県の防災局にも力添えをお願いしたい。

#### <知立市>

- (1) 県管理の逢妻川、猿渡川などとあわせて今後の対応を考えていく必要がある。県も含めて今後の対応をお願いしたい。
- (2) 市民の皆さんの行動に直結するわかりやすい情報提供が課題である。矢作川だけでなく市内の河川のわかりやすい情報についてご指導・ご助言いただきたい。
- (3) 現在のハザードマップにどのように反映させていくのかについても、具体的なアドバイス、情報提供をいただきたい。

#### <刈谷市>

- (1) 構成市町のなかでは、被害想定にかなり差がある。そのため、概ね5年間の市町での取組みについては、ある程度の役割、整備の差が出ると思われる。
- (2) 県管理河川の境川、逢妻川、猿渡川があり、刈谷市の住民はこちらを中心に考えるので、矢作川もあわせてどのように周知するかが課題である。
- (3) 一市町では解決できないことに対し、広域的な視点でやっていきたい。ソフト、ハードのずれが無いように、市域を超えたまちづくりが必要である。

#### <名古屋地方気象台>

- (1) 防災気象情報を有効に使っていただきたいと考えており、今年度から防災情報提供システムにおいてタイムラインに使えるような時系列の予報を発表している。来年度には、一般の方が見ることのできる気象庁HPにおいても、注意報・警報の可能性を伝えるよう試行を進めている。県・市の皆様にもぜひ住民の方への周知・広報のご協力をお願いしたい。

#### <安城市>

- (1) 最近、地震や津波に関しては古文書などから過去の事例や歴史に学ぶ動きがある。過去の事例の破堤時の気象条件、季節、天気図が残っていれば、こういう時に気をつけるべき、といったことがいくらか想像がつくのでは。亡くなった方・助かった方の人数、行動、状況などがわかれば、どの段階でどういう行動をとるべきか具体的に見えてくるのでは。
- (2) 半世紀以上、安城市内で破堤したことがないことから「洪水が来たら大変だ」と伝えてもリアリティをもって受け止めてくれない。具体的な過去の事例を示したら住民の意識が高まるのでは。矢作川に関する記録を河川事務所や気象台から紹介していただきたい。

#### <事務局>

- (1) 豊橋河川事務所では定本「矢作川」などで、過去の古文書等から被害状況をわかる限りとりまとめている。当時と現在では地形や堤防の状況が異なっているため、

同じ破堤状況にならないこともある。

雨量や気圧、天候については、雨量が測られたのが約 60 年前からであり、雨量観測所も多くなかったため、限られた雨量のデータしかないというのが実情である。

天気図等を取りまとめた資料、本がストックしてあるので、過去の洪水に対しての対応等も含めて機会を設けて紹介させていただきたい。

#### <西三河建設事務所>

- (1) 県庁河川課長が欠席なので、私から申し上げる。県管理河川についても 5 年間で洪水予報河川と水位周知河川の 28 河川について、想定最大規模降雨に対する洪水浸水想定区域を策定する予定である。浸水域の人口や資産が多い河川を優先する。また、市町が洪水ハザードマップを作成しやすいよう、国管理河川と県管理河川の浸水域が重なることが予想される河川などから開始する。
- (2) 地域協働型のみずから守るプログラムについても情報提供等含めて、市町・国と一体となってやって支援していきたい。

#### <高浜市>

- (1) どこから浸水するかという情報が市町のタイムラインに関係する。今回の洪水浸水想定区域図では、どこから浸水が始まるのかということは想定しているのか。

#### <事務局>

- (1) 今回の洪水浸水想定区域図は機械的に破堤させて、水深が深くなる場所を包絡的に色づけしているため、どこが強い、弱いということを考慮してつくった図ではない。ただし、仮に設定した想定破堤地点ごとの浸水範囲、到達時間は算出しているため、実際にある地点で破堤の危険性が高くなり破堤に及びそうになった場合に、その地点からの浸水範囲、到達時間は想定しており、予め各自治体へ情報提供できる。
- (2) 過去の災害履歴、堤内の高さ不足等をもとにした重要水防箇所を毎年確認し、関係機関に情報提供している。重要水防箇所を重点的に関係機関とともに、矢作川の巡視とあわせて現地確認し、水防訓練等を行っている。

#### <名古屋地方気象台>

- (1) 想定最大規模降雨を想定した浸水想定が出されたことにより、今まで大丈夫だと思っていたところがそうでなくなったと、住民の方が認識できたという面において効果はあったと思う。破堤すると実は危ないという危機感を持っていただくということが第一。

(2) 破堤する前に浸水しているかもしれないということも踏まえ、気象台から発表している注意報・警報・特別警報などを有効に使っていただき、また、タイムラインを作成していただき、事が起きる前に避難できるような体制づくりをしていただきたい。

以上